

第14回全国障害者スポーツ大会「長崎がんばらんば大会」結果概要

1 大会日程・出場選手

- 大会日程 : 平成26年11月1日(土)～11月3日(月・祝)
○出場選手 : 102名(個人競技36名、団体競技66名)

2 競技別獲得メダル数

- 個人競技・団体競技 総獲得数48個(金27、銀10、銅11)

個人競技内訳	金(1位)	銀(2位)	銅(3位)	計
陸上	16	7	4	27
水泳	7	2	-	9
アーチェリー	-	-	-	-
卓球	2	1	2	5
フライングディスク	2	-	1	3
ボウリング	-	-	2	2
個人競技合計	27	10	9	46

団体競技内訳	金(1位)	銀(2位)	銅(3位)	計
バレーボール聴覚女子	-	-	1	1
サッカー	-	-	1	1
団体競技合計	-	-	2	2

	金(1位)	銀(2位)	銅(3位)	計
個人・団体 合計	27	10	11	48

3 主な成績

- 陸上競技4×100mリレーで昨年に引き続き金メダルを獲得。
(H23 山口大会から4年連続で1位を保持)
- 団体競技では、3競技5チームが出場し、バレーボール競技聴覚女子及びサッカー競技の2チームが銅メダルを獲得。(団体競技のメダル獲得数2個はH24 ぎふ清流大会と同じ)
- 個人競技では、陸上及び水泳競技において4選手が4種目で大会新記録を樹立(陸上3、水泳1)。
- 佐藤 猛 (さとう たける) 選手 陸上 <片下腿切断 片下肢不完全>
・走幅跳: 4m70cm
※なお、100m競技にも出場し14秒10という大会新記録に相当するタイムを出したが、追い風参考記録となった。
・佐藤選手は今大会岐阜県選手団の選手会長(前回大会に続いて)
- 脇田 治則 (わきだ はるのり) 選手 陸上 <その他の車椅子>
・ジャベリックスロー: 16m13cm
- 日江井 みね子 (ひえい みねこ) 選手 陸上 <聴覚障がい>
・砲丸投: 8m07cm
- 荻原 久夫 (おぎわら ひさお) 選手 水泳 <第7頸髄まで残存>
・25mバタフライ: 29秒66

4 過去の成績との比較

		H21年度 (新潟大会)	H22年度 (千葉大会)	H23年度 (山口大会)	H24年度 (岐阜大会)	H25年度 (東京大会)	H26年度 (長崎大会)
個人	出場選手	43人	33人	46人	144人	61人	36人
	メダル数	42個	40個	64個	182個	77個	46個
団体	出場団体	2団体	2団体	4団体	12団体	4団体	5団体
	メダル数	無し	無し	3個	2個	1個	2個

○個人競技出場枠が大幅に減ったものの、団体競技においては北信越・東海ブロック予選を勝ち抜き、ぎふ清流大会に次ぐ5チームが出場を果たしたため、昨年の東京大会とほぼ同規模の156名もの選手団となりました。

○団体競技のメダル獲得数2個は山口大会の3個に次ぐ成績です。

○昨年の東京大会は、ぎふ清流大会開催の影響から主催者が決定する個人競技の出場枠が拡大されていましたが、今回からは出場枠が大幅に減り、平年ベースの36人にもかかわらず、個人競技出場選手の約78%の28名がメダリストとなっています。

5 他の都道府県・指定都市との比較

○岐阜県選手団の**総メダル獲得数**は、都道府県・指定都市計67団体中10番目。

順位	都道府県 指定都市名	選手延数 (個人競技出場種目数)	メダル個数 (個人競技+団体競技)
1	東京都	247人	203個
2	長崎県	267人	135個
3	大阪府	135人	102個
4	千葉県	105人	84個
5	愛知県	112人	73個
6	埼玉県	115人	67個
7	横浜市	83人	66個
8	鹿児島県	91人	52個
9	兵庫県	88人	50個
10	岐阜県	67人	48個

○岐阜県選手団の**金メダル獲得数**は、都道府県・指定都市計67団体中7番目。

順位	都道府県 指定都市名	選手延数 (個人競技出場種目数)	金メダル獲得数	選手延数に占める 金メダル個数の割合
1	東京都	247人	118個	47.8%
2	大阪府	135人	62個	46.0%
3	千葉県	105人	58個	55.2%
4	横浜市	83人	41個	49.4%
5	長崎県	267人	39個	14.6%
6	埼玉県	115人	34個	29.6%
7	岐阜県	67人	27個	40.3%
8	大阪市	83人	24個	28.9%
9	山口県	57人	23個	40.4%
10	兵庫県	88人	21個	23.9%

※複数競技に参加している選手もいるため、選手数は延べ人数。